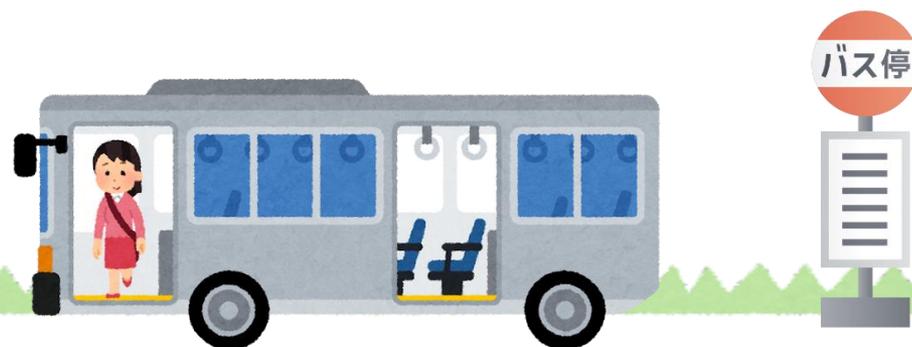


宗像市の家計簿

(令和5年度決算)

宗像市
経営企画部財政課



はじめに ～令和5年度の決算について～

本市が取り組んできた定住施策の成果などによって、**市税収入**は前年度を上回る**過去最大**となり、一般会計の**歳入決算額**は前年度から**25.7億円増加**しました。

先行きが不透明な状況の中でも、行政サービスが停滞しないよう**安定的な財政運営**に努め、未来に向けたまちづくりの実現を図ります。

目次

P3
各会計の決算額
について

P8
家計簿に置き換
えると・・・

P9
市の財政状況
について

P14
将来の見通し
について



宗像市の各会計の決算額について

市が仕事をするために必要なお金を管理する財布を「会計」といいます。

今回ご紹介するのは、こちら

一般会計

教育・福祉や道路・公園の管理など、市の基本的な行政サービスを行います。

特別会計

特定の収入で特定の事業を行います。
国民健康保険や介護保険の事業を行う会計などがあります。

企業会計

主に利用者からの料金収入で事業を行います。
下水道事業を行う会計があります。

令和5年度決算額

(億円)

区分	歳入	歳出	差引
一般会計(1)	467.4	453.1	14.3
特別会計(5)	210.0	206.3	3.7
企業会計(1)	31.9	38.4	▲ 6.5
合計	709.3	697.8	11.5

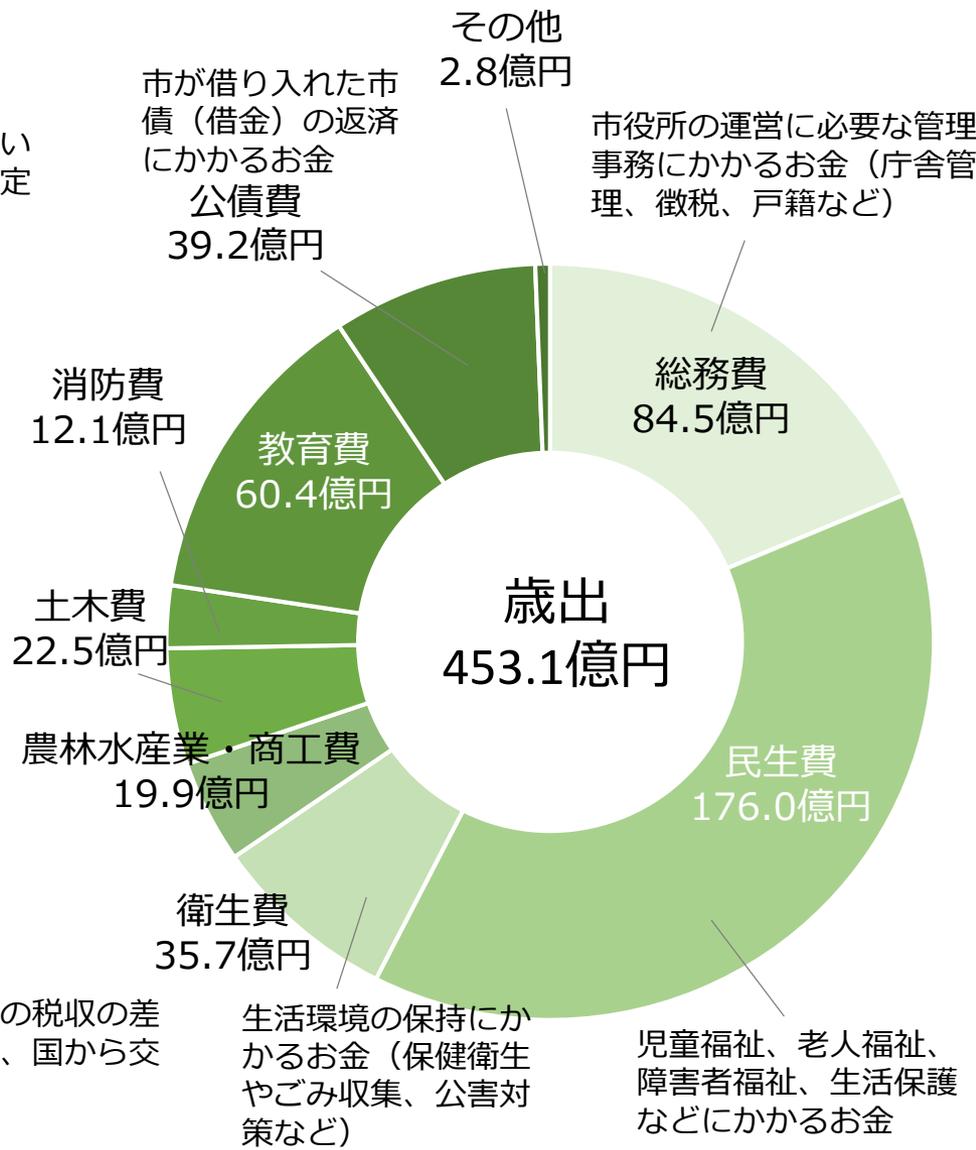
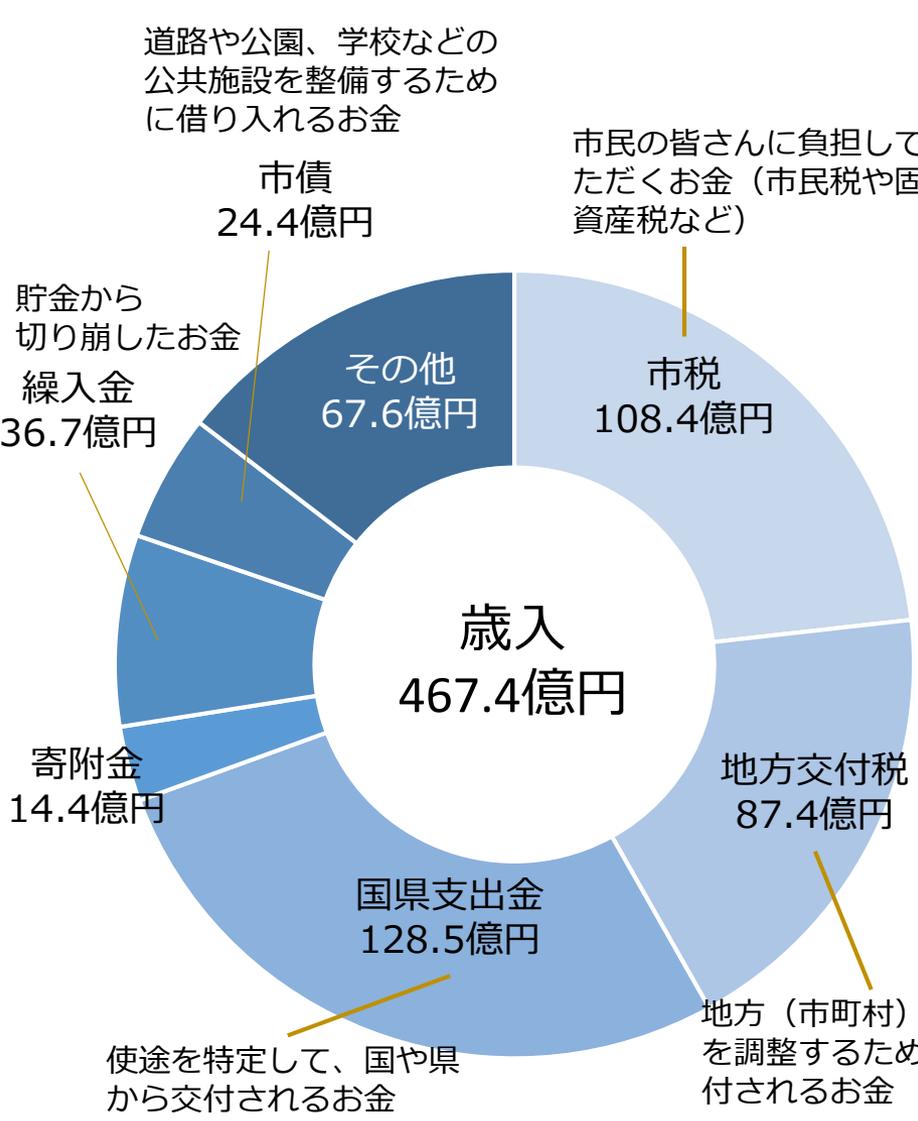
収入の種類や使い道などに応じて会計を分けることで、分かりやすく、収支が明確となるメリットがあります。

()の数字はそれぞれの会計数



一般会計決算額について

令和5年度の一般会計決算額は次のとおりです。



一般会計決算額（特徴）について

歳入 467.4億円で、前年度に比べて25.7億円増えました。

市税（市民税・固定資産税など）は、108.4億円でした（前年度比 **+0.3億円**）

国から交付された**地方交付税**は、87.4億円でした（前年度比 **+4.5億円**）

用途を特定して国や県から交付された**国県支出金**は、128.5億円でした（前年度比 **▲5.0億円**）

全国から支援いただいた**寄附金**（ふるさと寄附など）は、14.4億円でした（前年度比 **▲1.6億円**）

基金（貯金）を取り崩した**繰入金**は、36.7億円でした（前年度比 **+27.1億円**）

金融機関から借り入れる**市債**（借金）は、24.4億円でした（前年度比 **+1.7億円**）

歳出 453.1億円で、前年度に比べて33.4億円増えました。

総務費（庁舎管理費用や徴税、戸籍などに必要な費用）は、84.5億円でした（前年度比 **+18.6億円**）

民生費（福祉に必要な費用）は、176.0億円でした（前年度比 **+12.3億円**）

衛生費（保健衛生やごみ収集などに必要な費用）は、35.7億円でした（前年度比 **▲4.6億円**）

農林水産業・商工費（産業振興に必要な費用）は、19.9億円でした（前年度比 **▲2.5億円**）

土木費（道路や公園の管理・整備に必要な費用）は、22.5億円でした（前年度比 **▲2.3億円**）

消防費（消防や防災対策に必要な費用）は、12.1億円でした（前年度比 **+0.4億円**）

教育費（教育や文化・スポーツの振興に必要な費用）は、60.4億円でした（前年度比 **+7.7億円**）

公債費（市が借り入れた借金の返済金）は、39.2億円でした（前年度比 **+3.6億円**）



令和5年度の政策について

令和5年度に行った主な事業を紹介します。令和5年度は「定住都市むなかたの実現」の取り組みに加え、宗像の魅力を再認識し、多角的に生かすことで、宗像に住みたい、住み続けたいという共感を生み出していくための市政運営に重点的に取り組みました。

教育

教育環境の充実



城山中学校の新校舎

- ▶ 体育館空調設備や太陽光発電設備を備えた城山中学校の新校舎を供用開始
- ▶ すべての市立学校体育館空調設備整備に向けた設計業務を完了
- ▶ 福岡教育大学敷地内の県立特別支援学校用地の造成完了

子ども

妊娠・子育て支援強化



出産の時や新生児の気を付けることを伝授

- ▶ 安心して出産を迎えるため妊娠期からサポート
- ▶ 子ども家庭センターを開設し全ての妊産婦や子どもと家庭に対する相談支援体制を強化
- ▶ 病児保育の拡充を支援

まちづくり

都市再生の推進と公共交通の利便性向上



まちの将来について中学生と地元住民らで検討

- ▶ 日の里1丁目団地跡地と周辺の活用について検討するワークショップを開催
- ▶ オンデマンドバスのるーとの自動音声案内受付の導入や乗り場の増設、アプリの操作説明会を実施
- ▶ 地域公共交通計画を策定

環境

脱炭素社会の推進



EVバスへの切り替えでCO₂を削減

- ▶ ふれあいバス1台をEVバスに公用車19台を電動車に切り替えた
- ▶ 配色用油からバイオディーゼル燃料を製造し、ごみ収集車の燃料として活用
- ▶ CO₂吸収能力を持つ海藻（ブルーカーボン）の増加に向けた調査研究



市債とは

市が資金調達（歳入）の手段としてお金を借り入れ、または債券を発行することによって負う債務です。償還（借り入れたお金の返済）は次年度以降に渡ります。借りた年の支出を抑え、費用負担を平準化できる一方で、借り過ぎると将来の財政運営に影響を及ぼすため、適正な残高管理が必要です。



地方交付税とは

所得税、法人税、消費税などの国税のうち、その国税収入の一部が、各地方自治体の財源として、毎年交付されます。

地方交付税の目的のひとつは、地域で条件が違っていても、均等な行政サービスを受けることができるようにすることです。税収が不足する地域間の格差を補う財政調整システムとして機能しています。



宗像市の決算を家計簿におきかえてみると…

一般会計の歳入を年収480万円（月収40万円）の家庭におきかえた時の家計簿は次のとおりです。

令和5年度（R5.4.1からR6.3.31まで）

宗像市の家計簿

年収480万円

◆資産等の状況 預貯金（基金残高）230万円

給料	240万円	市税、地方交付税等	(20.0万円/月)
医療費や家の改修などに対する助成金	132万円	国県支出金	(11.0万円/月)
家の改築のためのローン（借金）	25万円	市債	(2.1万円/月)
その他雑入	22万円	諸収入、寄附金等	(1.8万円/月)
貯金から切り崩したお金	38万円	繰入金	(3.2万円/月)
前年度の残額	23万円	繰越金	(1.9万円/月)



支出465万円

◆ローン残高（市債残高）208万円

差引 15万円
(黒字)

食費	45万円	人件費	(3.8万円/月)
医療や保育料など	126万円	扶助費	(10.5万円/月)
ローンの返済など	40万円	公債費	(3.3万円/月)
リフォームや車の買い替えなど	51万円	投資的経費	(4.3万円/月)
光熱水費、雑費など	64万円	物件費等	(5.3万円/月)
家族への仕送りなど	101万円	繰出金、補助費等	(8.4万円/月)
貯金	34万円	積立金	(2.8万円/月)
雑費	4万円	その他	(0.3万円/月)

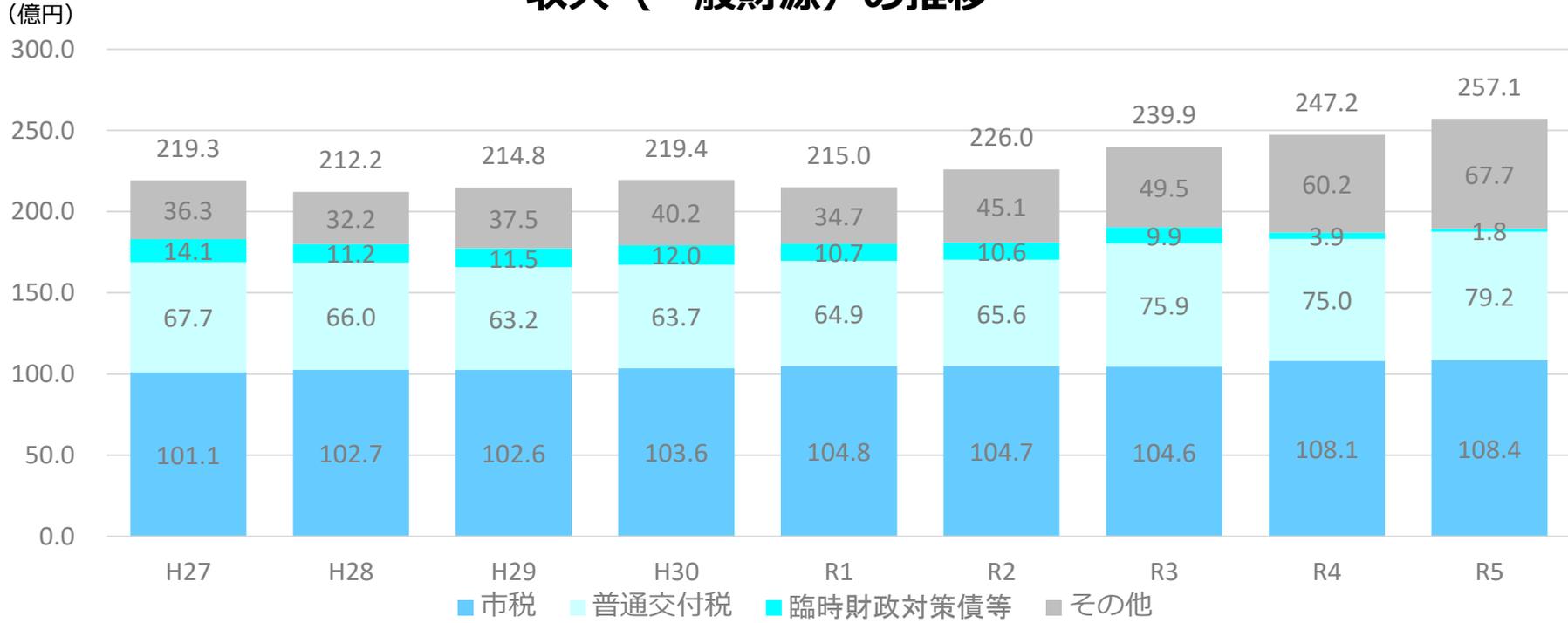
義務的経費



宗像市の財政状況について（収入）

収入のうち、市の裁量で自由に使えるお金である一般財源について説明します。一般財源の中でも重要な財源である市税は、毎年100億円程で推移しています。令和5年度は、固定資産税が着実に増加するなどして、市税は前年度を上回り、過去最大の108.4億円となりました。しかしながら、今後は人口の大きな増加や市税の大幅な増収は見込まれないと考えています。そのため、国や県の補助事業の活用、企業版ふるさと納税などの財源確保に努め、市の財政基盤を強化していきます。

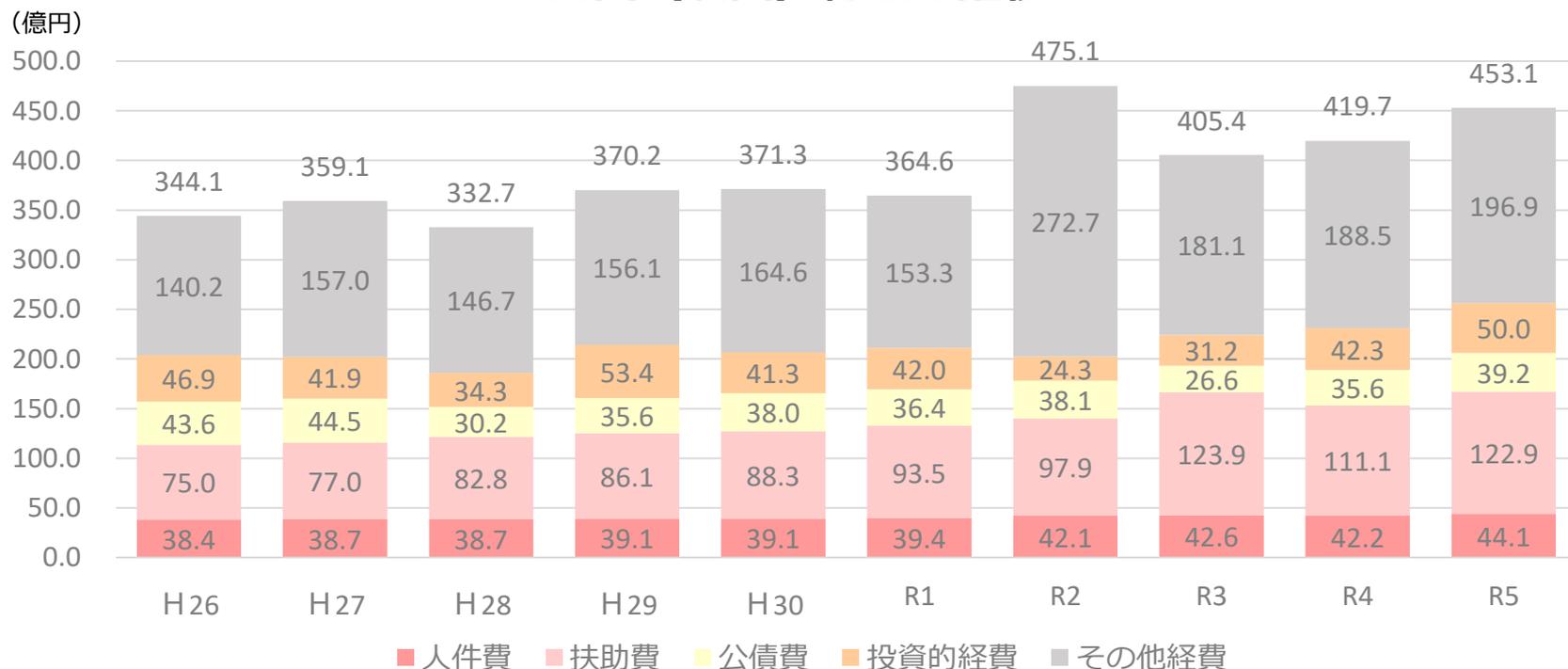
収入（一般財源）の推移



宗像市の財政状況について（支出）

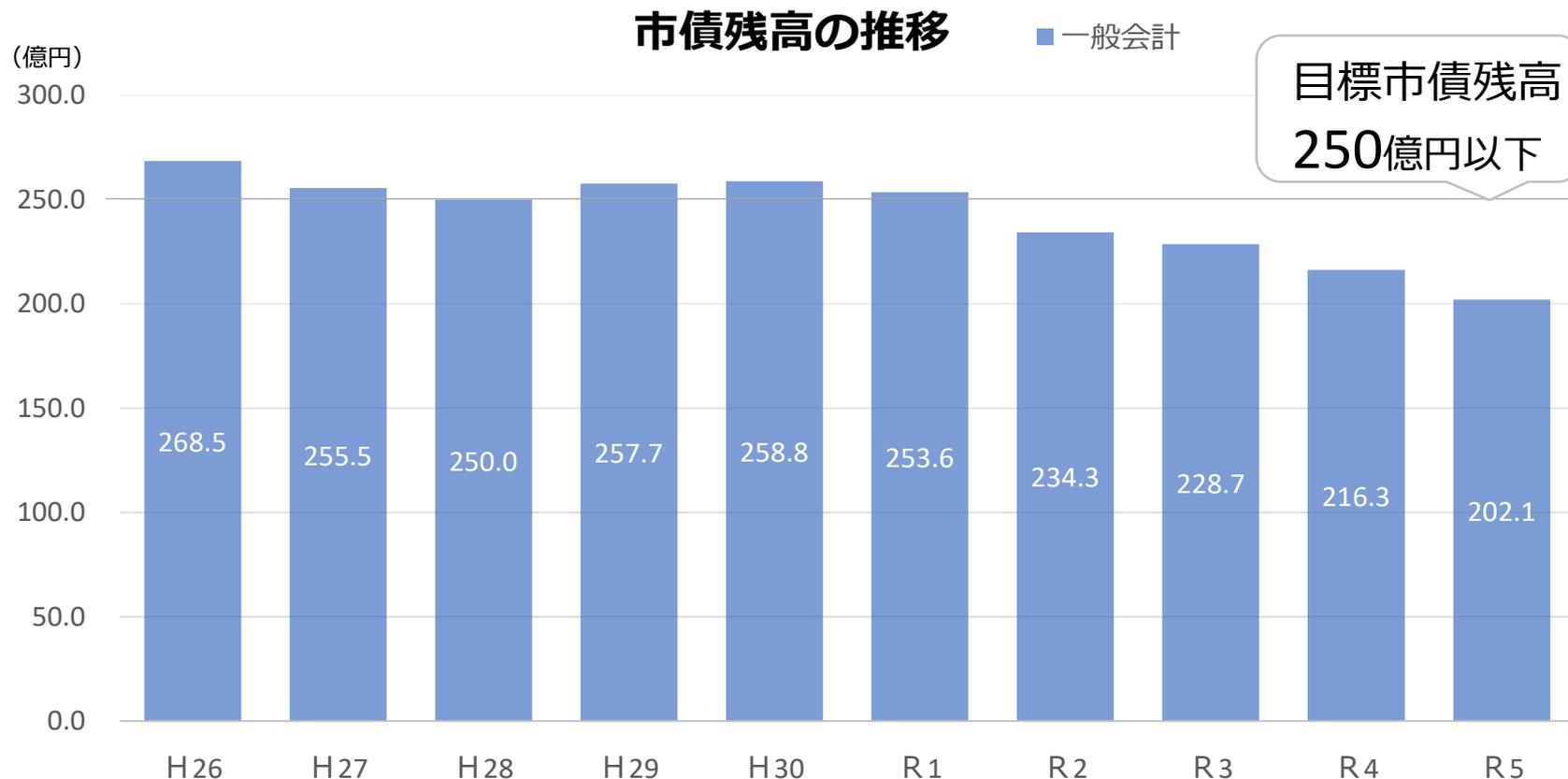
宗像市の支出（歳出）総額について説明します。保育や障がい者の福祉などにかかる支援を強化したほか、令和5年度は、城山中学校の整備をはじめとした公共施設の整備に係る費用（投資的経費）が前年度から7.7億円増加するなどして、前年度から33.4億円増加しました。このような厳しい財政状況だからこそ、既存事業の見直し等を実施して将来に渡って安定した行政サービスが提供できるような財政運営に努めていきます。

支出（歳出）総額の推移



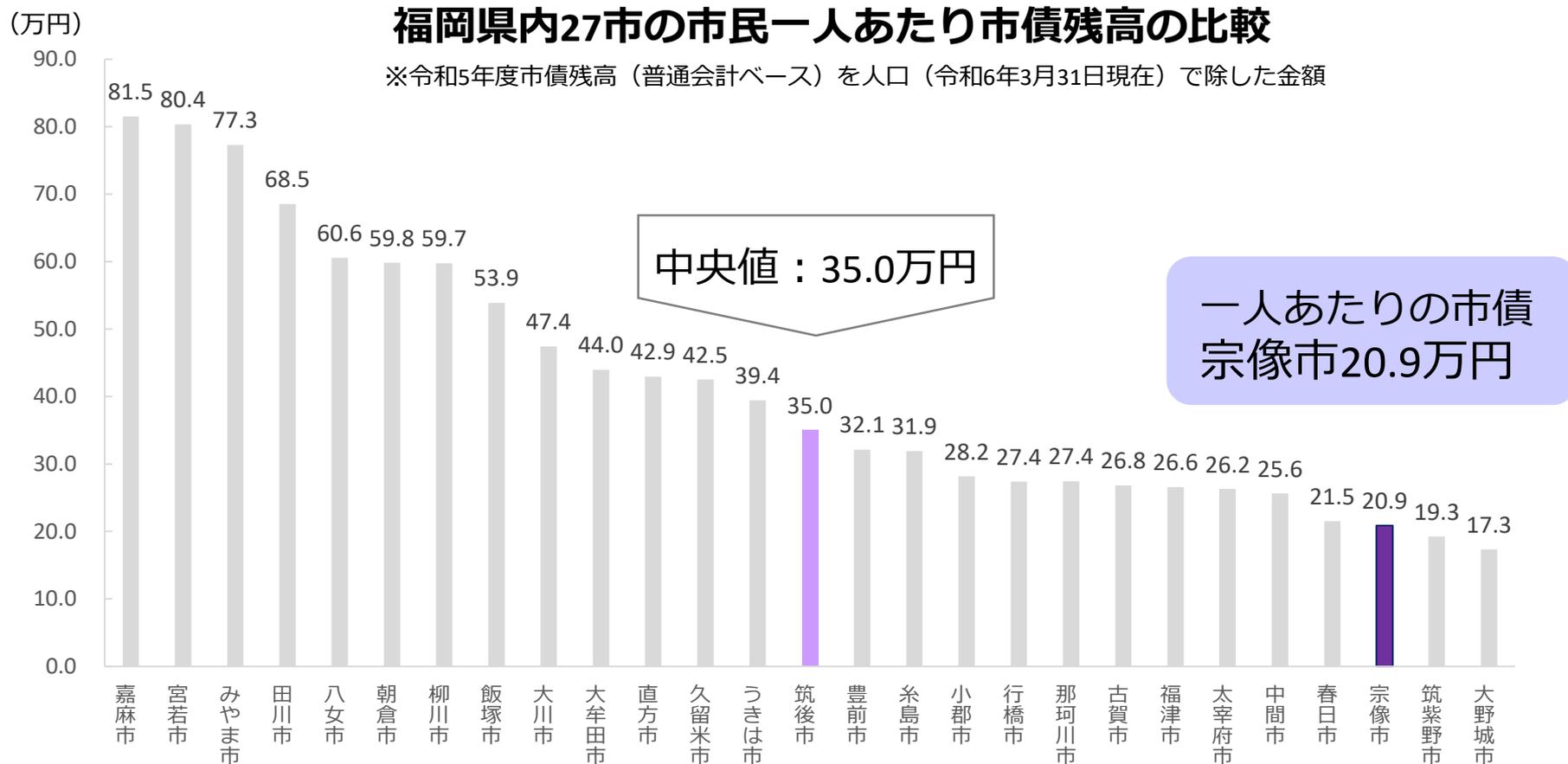
宗像市の財政状況について（市債）

宗像市が抱える借金（市債）は、202.1億円です。道路や小中学校の改修、城山中学校の整備などに市債を活用して事業を行ってきました。何十年も長期にわたり利用される公共施設は、将来にわたって公共施設を利用するみなさんにも公平に負担してもらおう考えから、借金（市債）をして整備を行っています。



宗像市の財政状況について（市債）

令和5年度末において、宗像市の市民一人あたりの市債残高は、20.9万円です。県内27市の他の市と比べても、低い水準（3番目）にあり、将来世代への負担は、比較的低い状況にあると言えます。



宗像市の財政状況について（貯金）

財政調整基金とは、市の財政運営において年度間の財源の不均衡を調整するための貯金（基金）です。財源に不足が生じる場合においては、この基金を取り崩しながら財政運営を行っています。

令和5年度は、不足する財源に対して9.6億円を繰り入れた一方で、防災意識の高まりを受け、市民生活の安全安心を確保する「安全安心まちづくり基金」の新設を見据えて15.0億円を積み立てた結果、前年度より5.4億円増加しています。

財政調整基金残高の推移

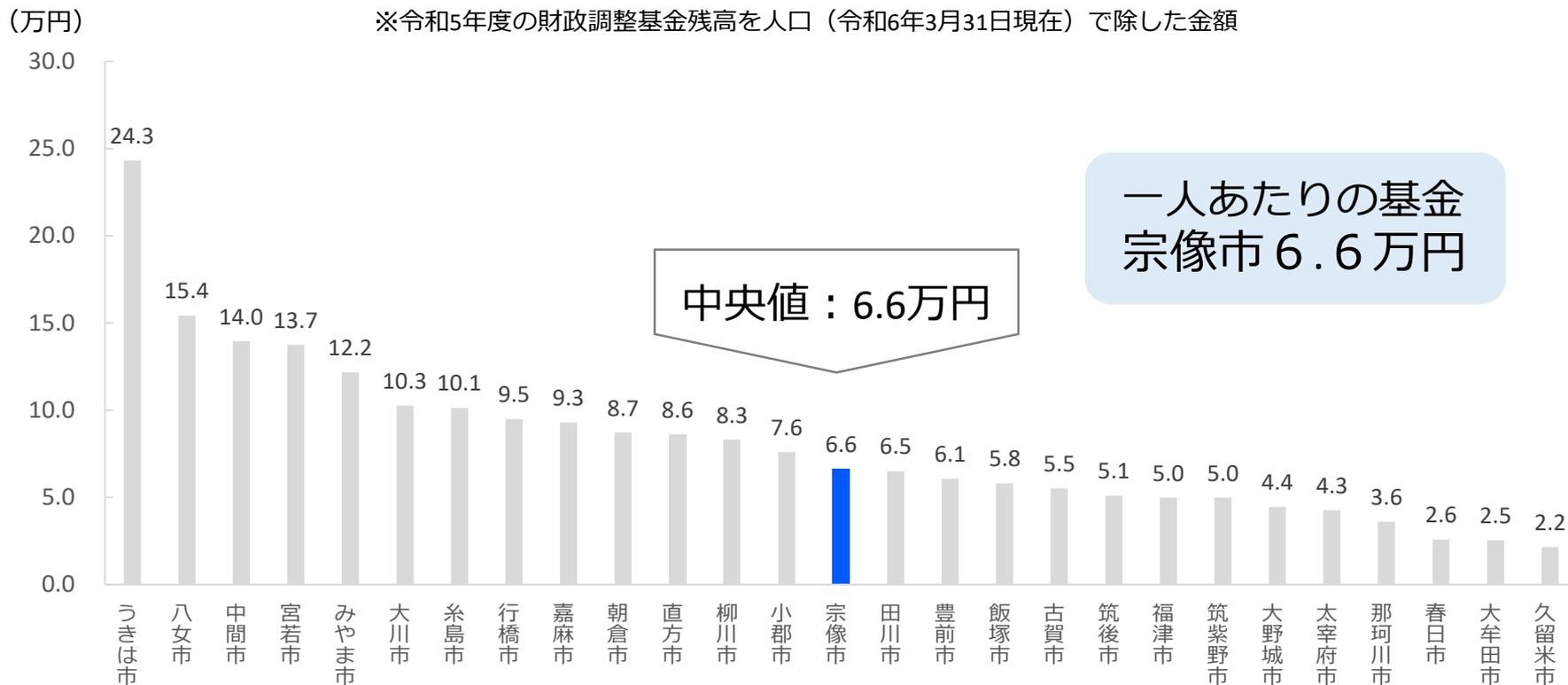


宗像市の財政状況について（貯金）

令和5年度末において、宗像市の市民一人あたりの基金残高は、6.6万円です。県内27市の他の市と比較して、真ん中（14番目）にあり、将来世代への備えは、標準的な状態と言えます。

福岡県内27市の市民一人あたり基金残高の比較

※令和5年度の財政調整基金残高を人口（令和6年3月31日現在）で除した金額



一人あたりの基金
宗像市 6.6万円

中央値：6.6万円



宗像市の将来見通しについて

○今後の財政見通し（課題）

- ・ 医療や障がい者福祉に必要な扶助費の伸びは続く
- ・ 物価高騰や賃上げによる維持管理コストが増加する
- ・ 市税や地方交付税も増えているが、人口減少社会を鑑みて、今後の増加は難しい

それに対して

行財政改革及び事業評価に基づく既存事業の見直し等により、経常経費の圧縮に努めていくとともに、ふるさと寄附金等の税外収入の確保を図り、将来に渡って安定した行政サービスが提供できる財政運営に取り組みます。

そうすると

これまでの「定住都市むなかたの実現」に向けて実施してきた取り組みに加え、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりをしっかりと進めることができます。そして、宗像の魅力のひとつであるすばらしい食を未来へと継承していくと共に、まちの未来を担う人たちが暮らしやすい環境を整えていくことで、まちが成長する好循環を実現することができます。



宗像市の財政状況は市ホームページ
「市政情報」 > 「市の財政」でもご覧いただけます。

🔍 宗像市 財政

検索



令和7年2月公表

令和7年度の
予算について

